

1. 講義のテーマ・目的

本講義では、グローバル経営の進化を、知的財産(とくに特許)管理の側面から把握することにチャレンジする。多国籍企業による国境を越えた技術移転は現代に限った現象ではなく、近代企業(現代の大企業)が 19 世紀末に出現してから組織的に行われてきたことであり、21 世紀の今日においても、どのように技術をグローバル経営に生かしていくのかという問題は、クリエイティブな対応が求められる課題となっている。では、そのような課題に対応できる力をどのようにつけるのか。その一つの解は、歴史から学ぶことである。100 年以上にわたるグローバル経営の歴史をひもとけば、その時々々の外部環境や条件に対応して企業がクリエイティブに対応し、つねに新たな経営方法を模索し、時には成功し、時には失敗し、さらにそのような経験が積み重なって次の経営を生んでいることがわかる。これをグローバル経営の進化と呼んでおくと、本講義では特許管理の側面に焦点を当てながら、どのように企業が経営を進化させてきたのか、理解を深めたい。

なお、本講義では、個別の事例を深く研究するスタイルをとる。対象とするのはアメリカ General Electric(GE)と日本の東芝(および前身の東京電気と芝浦製作所)であり、対象とするのは 19 世紀末からおよそ 1950 年代半ばまでの約半世紀である。

2. 講義スケジュール

8 月 8 日(土)第 1・2 限

●第 1 回 グローバル企業と特許管理(第 1 限)

そもそも特許管理とは何であるのか、なぜ特許管理なのか、という最も重要なコンセプトを議論する。また、グローバル経営の進化(多国籍企業の発展)についても、ハーバード・ビジネス・スクール Geoffrey Jones 教授のコンセプトをもとに議論を行う。

→テキスト範囲:「序章」および「第 1 章」

●第 2 回 日本における電球事業と特許管理(第 2 限)

特許管理とは、単に特許を出願したり登録したりすることではない。取得した特許の権利を行使し、企業戦略を実現するという広義の特許管理としてそれは把握される必要がある。第 1 次世界大戦前後、日本の電球産業において権利を行使し、電球産業を集中させたのは、GE であった。どのように特許を取得し、権利を行使し、ビジネスを進めたのかをみる。

→テキスト範囲:「第 2 章」

8 月 15 日(土)第 1・2 限

●第 3 回 技術導入と特許管理(第 1 限)

技術導入は、技術を出す側と導入する側があって成立する。また、技術は単に導入されるだけで

はなく、導入する側の自主的な技術開発と組み合わせられて有益なものとなる。この回では東京電気と芝浦製作所がどのように技術導入を行ったか、また各社においてどのように特許管理を開始したか、それはどのような目的をもって行われたかについてみていく。

→テキスト範囲:「第3章」

参考文献:「日立製作所の特許管理 1908-1941」

●第4回 国際特許管理契約(第2限)

第1次世界大戦は世界を大きく変え、その影響はGEと日本企業との間にも及んだ。外部環境の歴史的な変化に対してグローバル企業がどのように対応したのか、そしてとくに技術移転および特許管理の側面においてどのようなクリエイティブな対応がなされたかを見る。

→テキスト範囲:「第4章」

参考文献:「電気機械産業におけるグローバルな知識移転の組織化」

★授業終了後、レポート課題①を提示

提出締切は 2026年8月19日(水)23時59分。BEEF+を通して提出。

8月22日(土)第1・2限

●第5回 グローバルな技術移転と技術交流(第1限)

(1)レポート①の講評

(2)講義:1920・30年代は新たな戦略を追求し始めたグローバル企業(第4回)のもとで、日本企業が特許管理を拡充し企業成長を追求した時代であった。ここでは、特許管理がどのように国際的な技術移転を促進したのか、日本企業において技術導入と技術開発がどのように結び付けられていたのかを見ていく。

→テキスト範囲:「第5章」

参考文献:「富士電機の特許管理 1923-1941」

●第6回 日本企業による特許権の行使(第2限)

1920・30年代はまた、技術導入と技術開発が進んだだけでなく、日本企業が特許権を行使し企業戦略を追求していった時代であった。一般的に、日本企業は特許裁判など争いを好まないとイメージされているが、この時代は電球やラジオ分野において激しい特許係争が繰り広げられた。特許管理を広義でとらえて理解することに挑戦する。

→テキスト範囲:「第6章」「第7章」「第8章」

★授業終了後、レポート課題②を提示

提出締切は 2026年8月26日(水)23時59分。BEEF+を通して提出。

8月29日(土)第1・2限

●第7回 グローバル経営の進化と特許管理(第1限)

(1)レポート②の講評

(2)講義:第2次世界大戦もまた、世界を大きく変える出来事であった。グローバル企業、なかでもア

アメリカ企業は新たな世界戦略を検討・策定し、追求し始めた。新たな世界戦略の策定過程をみると、外部環境の変化をトップ・マネジメントがどのように認識したか、そしてどのような意思決定を行ったかがわかる。グローバル化の深化と特許管理の展開を、歴史的な視点からとらえる。

→テキスト範囲:「第 11 章」

●第 8 回 到達度確認・まとめ・チャレンジ課題(第 2 限)

到達度確認・まとめ

到達度確認では、単に授業で議論した 1950 年代までの特許管理についての理解を振り返るだけでなく、歴史的な知見を 2000 年以降における特許管理の特徴がどのような特徴を持つのか(昔と何が違うのか、何が変わらないのか)という今日的な議論に発展させたい。

3. テキスト

西村成弘『国際特許管理の日本的展開:GE と東芝の提携による生成と発展』有斐閣、2016 年

4. 参考文献

ジェフリー・ジョーンズ(安室憲一・梅野巨利訳)『国際経営講義:多国籍企業とグローバル資本主義』有斐閣、2007 年

西村成弘「日立製作所の特許管理 1908-1941」『関西大学商学論集』第 63 巻第 2 号、2018 年

→ <http://hdl.handle.net/10112/16298>

西村成弘「電気機械産業におけるグローバルな知識移転の組織化—特許部門間ネットワークと現地経営—」『商学論纂』第 62 巻 5・6 号、2021 年。

→ <https://chuo-u.repo.nii.ac.jp/records/13032>

西村成弘「富士電機の特許管理 1923-1941:技術情報の流れの組織化と研究開発」『経営史学』第 56 巻第 4 号、2022 年

→ <https://doi.org/10.5029/bhsj.56.4.3>

5. 事前・事後学習

- ・テキスト該当箇所を事前に読んだうえで、疑問点をまとめてくること。
- ・知的財産権(特許権)に関する簡単な入門書に目を通しておくこと。
- ・レポート課題に取り組むこと。

6. 成績評価

到達度確認…60%

レポート(2 回)…40%

7. 授業形態

- ・対面授業